

岡正雄 ウィーン学派に独自の視点を加えて、日本の民族学を育て、オーガナイザー、「座談の名手」として、国際的に活躍。

おかまさお

子規句歌革新1898 = 長野県東筑摩郡松本町で、判事を退官後弁護士になった岡俊純・小春の(5男3女の)末子に、生まれる。
教科書疑獄・1902 = 4歳：父が死去。
日比谷公園・1903 = 5歳：松本幼稚園に入園。
日露戦争終結・1905 = 7歳：一家で、東京麹町区富士見町移住、区立富士見小学校尋常科に入学するが
満鉄発足・1906 = 8歳：一家は松本に帰り、町立松本小学校尋常科に転学。
韓国反日暴動1907 = 9歳：
大逆事件判決1911 = 13歳：卒業。陸軍幼年学校入学を志望するも、家族に反対され、県立松本中学校に入学。自治修養結社(尚志社)の寄宿舎に入る。寮生と、白馬山に登り、徒歩で、富山から松本に戻るなど、_冒険好きで、学業不良。
明治天皇没・1912 = 14歳：孫文の辛亥革命に感動し、中国に興味をもつなど、_好奇心も旺盛、
大正政変・1913 = 15歳：義兄一家と伊勢神宮に参詣後、京都まで無銭旅行し、_大谷トルキスタン探検隊の話の聞いて感銘。
第一次大戦始1914 = 16歳：上海の東亜同文書院発行の雑誌{支那}を購読、蒙古、中央アジアに憧れるなど、世界に強い関心、
21ヶ条要求・1915 = 17歳：有沢広巳らと、生徒の自治精神を無視する校長を排斥する大事件に関わり、{尚志社}を退会、
民主主義・1916 = 18歳：学業不良のまま卒業。第三高等学校を受験するも不合格。
ロシア革命・1917 = 19歳：第二高等学校第一部内類科に入学。有賀重左衛門らと知り合い、マルクス、エンゲルスなどの文献を涉猟。
本格政党内閣1918 = 20歳：有賀らと、立山から槍ヶ岳を、翌年は、南アルプスを縦走。
ベルリン条約・1919 = 21歳：ロシア語を独習。校長排斥騒動。_モルガンの「古代社会」を苦読して、民族学への興味を深め、
大暴落・1920 = 22歳：卒業。三宅島で過した後、_東京帝国大学文学部社会学科に入学するが、主任教授建部遜吾の講義に失望して聴講せず、理学部の鳥居龍蔵の講義に通い、民族学の原書を模索涉猟、フレーザーに興味をもつ。

原敬首相暗殺1921 = 23歳

関東大震災・1923 = 25歳：建部遜吾のもとでは、論文を見て貰うこともできないため、卒業を1年延期。長兄の不興を買い、送金断たれ、家庭教師、翻訳等によって生活。雑誌{白樺}に、岡無理弥(好きだった祖父の名)名で、「交友時代におけるワグナーとニーチェ」を訳述し、初めて原稿料をもらう。
建部遜吾の定年退職で、論文「早期社会分化における呪的要素」を提出し、卒業。偶然、シュミットとコッパース共著の「民族学の歴史と方法」を入手して、目が開き、以後、生涯高く評価している。
護憲三派圧勝1924 = 26歳：友人に連れられ、_初めて柳田国男邸を訪ねて、フレーザーの翻訳の序文と出版は断られるものの、{木曜会}に列席を許され、折口信夫ほか多様な一流人物を知り、有賀を通じて、渋沢敬三とも交流。兄の茂雄が、人類学専門出版社{岡書院}を開業したことから、渋沢の金銭的支援を受けて、

治安維持法・1925 = 27歳

金融恐慌・1927 = 29歳：_岡書院から、柳田国男一門の総合隔月刊{民族}を発刊、編集にあたる。
人類学、民族学、考古学の友人らと{APE会}をつくり、折口信夫の論文から感銘を受ける。パーンの「民俗学概論」を訳出し、同書院から出版。_柳田の要請で、新築の砧村の{柳田文庫}に移住し、管理に当たり、
共産党事件・1928 = 30歳：_{民族}に、処女論文「異人その他」を発表するが、折口の論文を柳田に無断で発表して、破門され、
世界恐慌・1929 = 31歳：折口を中心に{民俗学会}が組織され、機関誌{民俗学}発刊。_{民族}も休刊。学問を止めようと、挨拶に行っていた渋沢から励まされた上、資金提供されて、私淑するヴィルヘルム・シュミットのいるウィーン大学哲学部民族学専科に、シベリア経由で、留学、

海軍軍縮条約1930 = 32歳

ベルリンの学者を訪ねての帰途、ライブチヒで、初めて演説するヒトラーを見る。ハンブルクで開催の、_新大陸についての諸分野の研究者のための{アメリカニスト会議}に出席、付き合いが広がる、
満州事変・1931 = 33歳：この間、_ハイネ=ゲルデルンの「東南アジア民族史」のセミナーに参加、本格的な研究を志すようになり、
国際連盟脱退1933 = 35歳：ヒトラーが政権を握り、オーストリアは騒然とするなか、論文「古日本の文化層」により、Ph.D.(博士)となる。コッパースらの推薦で、ロックフェラー財団の奨学金を受け、ウィーンでの研究を続けるが、

帝人疑獄事件1934 = 36歳

ロンドン開催の第1回国際人類学民族学会議に出席、琉球についての報告を行う。オーストリア社会民主党が壊滅、オーストリア・ナチスがドルフス首相を射殺するなど、_情勢が一気に悪化し、
芥川直木賞始1935 = 37歳：学会機関誌{民族学研究}が発刊され、{民俗学}は廃刊に。_帰国。外務省、{三井}南家当主三井高陽らと、ウィーン大学に日本学研究所開設を協議、三井の懇請で、日埃協会専務理事になる。
二二六事件・1936 = 38歳：東京帝国大学で、第1回日本人類学会日本民族学会連合大会が開かれる。
日中戦争始・1937 = 39歳：国際人類学民族学会議の日本委員幹事になる。三井の援助で、日本民族学会主催の千島樺太調査に随行。
健保+総動員1938 = 40歳：_ウィーン大学客員教授に招かれるも、ヒトラーがオーストリアに進入、シュミットのが国外追放後、ようやく、ドイツ政府から任命、{三井}寄贈の日本学研究所も主宰、俊秀として大きな影響を及ぼすに至る。

第二次大戦始1939 = 41歳

母、つづいて長兄が死去。フタペスト大学の客員教授にも招かれ、講義に通う。
大政翼賛会・1940 = 42歳：トルコ、バルカン諸国を旅行。_暇を貰って帰国、国立民族研究所設立運動を知り、同志と奔走、
日米開戦・1941 = 43歳：参謀本部囑託になる。川喜田久太夫の娘澄子と結婚。満洲国に招かれ、妻を伴い旅行。_閣議決定されるが、独ソ戦の勃発で無期延期。ウィーン帰任も不可能になり、客員教授を辞任。民族研究会を主宰。
日本民族学会が、白鳥庫吉を会長に財団法人日本民族学協会に改組。参謀本部の委嘱で南方諸国を視察。
創価学会換挙1943 = 45歳：長男千曲が誕生。_高田保馬を所長に、民族研究所が設立され、総務部長を命じられるが、
敗戦・1945 = 47歳：長女あつさが誕生。_敗戦となり、閉鎖。家族の疎開先の長野県南安曇郡で、自給自足の農生活を始め、ウィーンに戻れず、戦災で蔵書、資料を焼失、経済的家庭的事情で、学問を止める心境となる。

新憲法施行・1947 = 49歳

*「アメリカニストの縁でか、GHQから、ウィーンに置いてきた「古日本の文化層」5巻の独文原稿を渡され、
極東裁判判決・1948 = 50歳：_石田英一郎の司会で、江上波夫、八幡一郎との座談会「日本民族-文化の源流と日本国家の形成」のために上京、新たな学説によって、議論を主導。杉並区に家を新築し、疎開地から移住。
三大事件・1949 = 51歳：友人の発刊する漫画雑誌{スーパーマン}の経営に参加参加するも、廃刊となり、負債で、家計は困窮。
朝鮮戦争始・1950 = 52歳：*日本民族学協会の理事長になり、学界に復帰。日本学術会議人類学民族学研究連絡委員会委員にもなる。
独立回復・1951 = 53歳：_都立大学教授になる。日本学術会議から、パリで開催の国際人類学民族学会議理事に派遣され、旧知の欧米諸学者に再会。会議の日本委員になる。諸大学・研究所を歴訪し、スイスにシュミットを訪ね、コッパースに招かれ、ウィーンに赴く。日本民族学協会のアイヌ民族総合調査委員長になり、沙流アイヌ調査。

メデー事件・1952 = 54歳

英国ケンブリッジでのアメリカニスト会議に続いて、ウィーンでの国際人類学民族学会議に出席、副会長に推され、会議後、入院していたシュミットを見舞う。いずれの会議にも毎回のように出席して行く。
_都立大大学院に社会人類学研究科を開設。
TV放送始・1953 = 55歳

自衛隊発足・1954 = 56歳

長谷部言人らと共に、天皇に、日本民族・文化の源流の問題を、5日間進講。_シュミットが死去。
自衛隊加入・1956 = 58歳：姉川久保和子が死去。アジア財団援助で、米国、カナダの民族学博物館を視察、エスキモー研究に刺激。
なべ底不況・1957 = 59歳：_国際人類学民族学連合の副会長に選出される。
イスタトラーメ・1958 = 60歳：コッパースが来日。10年前の討論「日本民族の起源」がようやく出版。_日本民族学協会理事長を辞任。
安保闘争・1960 = 62歳：_都立大を辞職、明治大学政経学部教授になり、第1次アラスカ学術調査団民族学班長。
全国いつい病始・1961 = 63歳：津軽、北下、三陸の漁村、農村調査。

全国総合計画1962 = 64歳

柳田国男が死去。岩手県豊代村調査。明治大学第2次アラスカ学術調査団団長として、エスキモーの調査。
TV宇宙中継始1963 = 65歳：三兄細見惟雄が死去。文部省学術奨励審議会委員となり、団長として、欧州諸国のアジア・アフリカ言語文化研究状況を視察。_ウィーン民族学会の名誉会員に推薦される。
民族学協会から分離の日本民族学会評議員。_東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所長になる。
いざなぎ景気1966 = 68歳：ロンドンでの国際人類学会議に派遣され、諸大学を歴訪。松本市立日本民俗資料館名誉館長。_オーストリア政府から勲章。イギリスの王立人類学協会名誉会員に推挙される。
_*東京・京都での第8回国際人類学民族学連合および会議の会長を務め、終了後、連合の名誉会長。

霞ヶ関ビル・1968 = 70歳

大阪万博・1970 = 72歳：_アジア・アフリカ言語文化研究所長を辞任し、和洋女子大教授。
石油ショック1973 = 75歳：文化財保護委員、無形民俗文化部会長。アラスカエスキモー調査(翌々年も)、
ケアンズ事件1975 = 77歳：ニューデリーでの_第10回国際人類学民族学会議で映像人類学部門座長を務めたのを最後に、
成田衝突・1978 = 80歳：*処女論文をベースにした「異人その他 日本民族・文化の源流と日本国家の形成」を出版して、
革新大敗北・1979 = 81歳：_没した。
中曽根内閣・1982 = 84歳：2012年、ドイツで、三菱財団の支援により、幻の大著「古日本の文化層」が出版された。

岡正雄「異人 その他 日本民族・文化の源流と日本国家の形成」、ヨーゼフ・クライナー編「日本民族学の戦前と戦後 岡正雄と日本民族学の草分け」で追補、